

東田直樹・綾屋紗月講演会

自閉症とアスペルガー症候群: コミュニケーションのかたち

—当事者による講演と研究者を交えた討論を通じて自閉症・アスペルガー症候群のコミュニケーションのあり方と支援方法について考える—

日時：2010年7月18日（日）13:00~16:00（交流会 16:15 ~ 17:45）

会場：東京大学駒場Iキャンパス 18号館ホール（交流会：18号館4階オープンスペース）

参加費：無料（交流会は有料です）

事前申し込み制（定員180名）

UTCPウェブサイト（<http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>）の参加申し込みフォームによりお申し込みください
メールでのお問い合わせ

石原孝二 cishi08@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

池田喬 imazine@eb.mbn.or.jp

米国精神医学会の現在の診断基準（DSM-IV-TR）では、自閉症（「自閉性障害」）の診断基準の1つに「コミュニケーションの質的な障害」が挙げられています。また、アスペルガー症候群の方でも、通常の仕方でのコミュニケーションに困難を抱えている場合があります。本講演会では、通常とは少し異なる仕方でのコミュニケーションを行うスキルを獲得し、小説や著作などを発表されている自閉症・アスペルガー症候群当事者の東田直樹さんと綾屋紗月さんにご講演いただくことにより、自閉症とアスペルガー症候群におけるコミュニケーション障害とは何かを考えます。

また、お二人の講演と、コミュニケーション障害を専門的に研究されている藤野博さん（東京学芸大学教授）を交えた討論を通じて、通常とは異なるコミュニケーションの形にどのように寄り添い、支援するべきなのか、そもそもコミュニケーションとは何か、といった問題にアプローチします。

プログラム

13:00 ~ 13:15 趣旨説明（石原孝二）

13:15 ~ 13:45 講演「自閉症者による文字盤ポインティング」東田直樹（講演補助：東田美紀、司会：石原孝二）

13:45 ~ 14:15 講演「『うまく話せない』当事者研究」綾屋紗月（講演補助：熊谷晋一郎、司会：河野哲也）

14:30 ~ 16:00 質疑応答・総合討論（司会：石原孝二）

パネリスト：藤野博、東田直樹（東田美紀）、綾屋紗月（熊谷晋一郎）

16:15 ~ 17:45 交流会（参加費1,000円）

東田直樹

1992年8月生まれ。アットマーク国際高等学校3年生。第四回、第五回グリム童話賞中学生以下の部大賞ほか多数受賞。著書に『自閉というぼくの世界』2004年、『自閉症の僕が跳びはねる理由』2007年（以上エスコアール）他、小学館、朝日新聞社、交通新聞社より、童話、詩、絵本を13冊出版。

綾屋紗月

1974年生まれ。2児の母。幼少時より集団生活や話すことになじみず、虚弱で鬱々とした学校時代を送る。大学時代に聴覚障害学生と共に活動をしながら手話を学習。2006年アスペルガー症候群と診断。著書に『発達障害当事者研究』（共著、医学書院、2008）、『前略、離婚を決めました』（理論社、2009）。